



厚木県央ロータリークラブ
第1102回例会 奉仕プロジェクト委員会
テーマ 部活指導者の現状について。
例会名 クラブ協議会

日本の教育問題の一つ
部活指導者の現状から教員の
過剰労働について考える。



・ 今回の例会行事の目的

前回の例会行事において卓話をいただいた、厚木市スキー協会の青木様は教育に永い間携わって来られた方です。そして例会準備の打ち合わせのおり、現在の教育現場での問題点をいろいろお話いただき、**特に『義務教育での部活動の負担が教員の大きな問題となっている。』**とお聞きしました。

その他にも、数々の教育現場での教員への負担のシワ寄せをお聞きしたなかで、我がクラブとして青少年奉仕の一環として、ほんの少しでもお手伝い出来る様な活動があるのではないかと考え、そのヒントを見つけるために今回の例会行事を企画しました。

そして**委員会として『新川年度の奉仕プロジェクト委員会は、今例会における内容を掘り下げる活動をメインとして、1年間の最後に何かを見つきたい。』**と考えております。

まずは青木様からお聞きした

日本の教育現場の問題点を簡単に記しましょう。



いじめ、引きこもり



教育格差



詰め込み教育、学力低下

教育問題は言葉の通り、教育上で発生する問題のことですが、

最大の問題は教員を志す方が減り慢性的な教員不足となっていてしまっているとの事です。

それにしても・・・

いや～学校の先生って本当に大変ですね！ストレスから精神を病む人や人間関係に疲れてしまう教員も多数いるとの事です。こんな状況では仕方ありません。

以上のように問題をあげたらきりがありません。

『社会の流れでしょうがない。』とか、『先生の能力不足に起因するものだ。』と思われる方も多くいらっしゃるかもしれない。

ただ、本当にこれらは**解決し難い問題**なのでしょうか？

今回は、多々ある教育問題のなかで当クラブでお手伝い出来る可能性のある問題を考え、改善する方法を会員に周知し共に問題提起してみようではないか。

教員が抱える多忙化という問題

◇ 先生が抱える問題。それが多忙化です。

教員は忙しいがために生徒と向き合う時間が十分に取れず、教材研究の時間も取れていない。そのため多くの教育問題が発生してしまう原因ともなっている。

◇ それでは実際に教員はどれほど忙しいのか。

小学校教員の33.5%、中学校教員の57.7%が週に20時間以上の残業、つまり多くの教員が月80時間以上の過労死ラインを超える時間外労働をしているとの事。もちろん自宅残業は含まず、校外での授業準備等も含めるとより多くの教員が過労死ラインを超えた残業をしていることが想定される。

また、残業代はほとんど払われず、多くの教員は対価が支払われないにも関わらず、毎月過労死ラインを超える残業をしている事になります。

(平成28年度 文部科学省『教員勤務実態調査』による)



教員の多忙化（中学校教員）

- 1、授業時間の増加
- 2、指導内容の増加
- 3、時代の変化への対応
- 4、働き方改革に関する調査（国）の結果
- 5、学校(管理職)や行政(教育委員会)の多忙化解消の取り組み

1、授業時間の増加

◇一年間に行なうべき授業時間数の変化

1998年（平成10年）は、年間（35週）－980時間

※学校週5日制が完全実施

2022年（令和4年）は、年間（35週）－1015時間

※最近、夏休みが8月31日までない！

2、指導内容の増加

◇追加された指導内容

人権教育、環境教育、国際理解教育、情報教育、
キャリア教育、インクルーシブ教育

新たな指導方法（アクティブラーニング）他

#小学校では外国語教育も！

⇒**教員**は、**生徒に教えるために研修を受け、独自にも勉強**
しなければならない。

3、時代の変化への対応

(1) 安全性への緻密な計画づくり

- ・ 体育や屋外活動等の安全配慮の拡大 ※熱中症対策
- ・ 救急法やA E D講習会の実施

(2) 会議や研修会の増加

- ・ 不登校、いじめ対策、支援教育の推進、食物アレルギー等に係る研修会の実施

(3) I C T化のための教材研究

- ・ 一人一台の情報機器（モバイル端末）の研修

(4) 生徒の支援・指導

- ・ 集団に対する指導だけでは理解・習得できない生徒への個別指導の拡大

(5) 保護者や地域への対応

- ・ 苦情対応と家庭でやるべきことの肩代わり ※SNS関連等

(6) 教員の地域行事への参加 ※生徒の引率等

4、働き方改革に関する調査[国]の結果

◇ 中学校教員の超過勤務時間で、最も多く占めていたのは部活動に関わる時間

- ・ 部活動に教育的価値を見出している教員も多い
- ・ 顧問（教員）の部活動運営方針を超える生徒・保護者からの要望

5、学校や行政(教育委員会)の多忙化解消の取組み

(1) 教員が行う事務の縮減と効率化

- ・ かつて手作業だった事務処理の電子化(成績処理、通信表作成、書類作成等)
- ・ 給食費の公会計化
- ・ 諸会費などの集金業務を保護者による口座振替に

(2) 会議の効率化による時間短縮

(3) 部活動に関わるガイドラインの作成

- ・ 週休日の確保と部活動の時間制限の設定

(4) 教員の意識改革

- ・ 仕事の効率化を自ら考える姿勢の育成
- ・ 休みの日はきちんと休むといった、メリハリのある勤務態度の習得

～教員の働き方改革のポイント～

☆教員の仕事は、社会の要請を受けての内容が多く、なかなか省力化することができない。

☆『教員の本来業務である授業の準備や子供と向き合うこと』にいくら時間がかかっても、教員は『忙しい、大変だ！』とは考えない。

⇒**教員自身の意識改革も必要！**

いままだ少数の例ですが 部活動に地域意向が模索されています。

部活動の地域移行（部活動指導員の配慮、民間委託を含む）で期待される効果

1) 子供にとっての影響

- ◇ 学校では出来なかった活動ができる。活動の選択肢が広がる。
- ◇ その競技や文化活動の専門性の高い指導を受けられる。（指導者によるが）
- ◇ 入退部の自由度が増す。（強要されにくい）
- ◇ 様々な価値観をもつ人との交流（斜めの関係の構築）のなか成長できる。

2) 教職員、学校にとっての影響

- ◇ 部活指導者の負担が減る。授業準備など本来業務により時間とエネルギーを割けるようになる。
- ◇ 地域との関係性が強まる。部活動以外でも連携しやすくなる。

3) 地域にとっての影響

- ◇ 地域のスポーツや文化活動が活性化する。指導者も愛好者も増える。
- ◇ 地域の中での連携、関係性、ソーシャル・キャピタルが向上し、部活動以外でも役立つ（例：防災・防犯）
- ◇ 地域人材にとって生きがいや健康につながる。
- ◇ 民間企業等にとってはビジネスの活性化につながる。

（文化庁地域での文化部活動の在り方についてオンライン座談会より抜粋）

部活動の地域移行 (部活動指導員の配置、民間委託を含む) の問題点

1) 子供にとっての影響

- ◇ 学校管理下よりも、子供にとって過大な負担となるケースもある。過熱化する中で怪我やバーンアウトを誘発するリスクも。
- ◇ 暴力、体罰、暴言など不適切な行動の被害を受けるリスクがある。
- ◇ 家庭の負担が深まり（費用や送迎など）一部の生徒は参加できなくなる可能性がある。

2) 教職員、学校にとっての影響

- ◇ 児童生徒と部活動を通じて関係性をつくりにくくなる。
- ◇ 教師としてのやり方がいが下がる人もいる。
- ◇ 地域との連携・協力がうまくいかず、もめたりするとかえって負担は増える。
- ◇ 勤務を離れて、教職員が地域活動として指導に当たることも可能だが、過労死等のリスクが高まっても、管理・モニタリングできない。

3) 地域にとっての影響

- ◇ 受け皿となる地域団体等における負担は増す。（安全管理、会計等）
- ◇ 地域ごとの差が広がる。受け皿が沢山ある地域と殆どない地域とスポーツ、文化活動等が活性化する地域もあれば、停滞する地域もとりわけ人口減少地域は子供の減少と相まって魅力減少か？

(文化庁 地域での文化部活動の在り方についてオンライン座談会より抜粋)

新川年度 奉仕プロジェクト委員会は 今年度どの様な活動をしたいのか！

- 1) 教育現場における教員の過重労働の実態を会員が理解し認識する。
- 2) 教員の過重労働の原因の一つである部活動に対する改善方法や実態を知る事により青少年奉仕や社会奉仕の活動を考える。
- 3) 教育現場の生の声や、現実に行なわれている地域社会は移行している情報を入手し今後の活動に活かすと共に、年度末に何か例会行事を開催したい。

とにかく大変な活動ですが、まずは知る事を目指したいと思います。

まとめ

25周年の厚木県央ロータリークラブの 奉仕プロジェクトとして

『**教員の多忙化**』という問題の背景には教員の仕事量が多いことや、教員の人数が足りないことなどが挙げられる。

逆に言えば、**教員の労働環境や資質を向上**させるため、教員が**他の専門職と協力**できる体制が整い、**教員がを本来の職務を遂行し、授業準備も十分に出来るような社会にならなければ教育の質も上がらない。**

教員の多忙化を知ったここにいる会員の皆さんが、**教員の尊さ**を周りの人に伝えていただきたい。（高木さん談）

教員が向き合う厳しい現実を伝えていただく事だけでも将来を担う青少年への奉仕活動といえるのではないかと！

当クラブの皆さんの小さな働きでこの社会を大きく変えていきませんか。